

## 富浦地区学校再編に関わる地区説明会 会議録

日時 令和6年1月24日（水）

午後7時から午後8時00分まで

会場 富浦中学校体育館

### 【当日関係者】

検討委員	17人（1人欠席）
オブザーバー	3人
参加者	18人
報道	0人
事務局	9人（3名欠席）

### 1 開会

進行 皆さんこんばんは。定刻となりましたので始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、また、お疲れのところ御出席をいただき、誠に有難うございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局 学校再編整備課の平田と申します。なお、既に席次を確認された方がいらっしゃるかも知れませんが、進行を務める予定であった黒川が体調不良で欠席させていただいておりますので、代わりに進行を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

進行 説明会に入る前に、お手元に配布いたしました、資料の確認をお願いいたします。

まず、説明会「次第」。

次に、「令和5年度 富浦地区学校再編検討委員会委員名簿」で、A4で両面印刷のもの。

次に、本日の「席次表」。

次に、資料1「南房総市立小学校・中学校 児童生徒数 推移見込み（市内全地区）」で、裏面が「中学校別 部活動の実施状況」となっているA3で両面印刷が1枚のもの。

次に、資料2「南房総市立中学校 生徒数・学級数・教員数 推移見込み（富浦地区・富山地区）」で、A3で片面印刷のもの。

次に、資料3「富浦地区の中学校再編（案）」で、A4で片面印刷のもの。

次に、資料4「保護者説明会の概要」で、A4で両面印刷のもの。

配付物は以上の7種類となります。御確認いただき、不足等がございましたら、手を挙げていただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、開会前に皆様にお願いがございます。この後、次第の6で、皆様からの質疑・意見交換の時間がありますが、声がこもることがありますので、マスクを外して御発言いただくようお願い申し上げます。

進行 それでは、ただ今から、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。進行は、次第に沿って進めます。

## 2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

富浦地区学校再編検討委員会 穂積委員長、お願いいたします。

委員長 皆様、こんばんは。

令和6年、新年幕開け早々、能登半島で大きな地震が起きました。甚大な被害が起き、今日々、テレビあるいは新聞等でその状況が報道されておりますけれども、この被災地の一日も早い復旧・復興を心から願うと同時に、皆様方も御多幸をお祈り申し上げたいと思っております。

本日は、今日一日のお仕事を終え大変お疲れの中、本説明会に御出席をいただきまして誠に有難うございます。また夜分、お寒い中、大勢の皆さんに出席をいただいたこと、本当に感謝申し上げます。

また、検討委員の皆様、市議会議員の皆様には、御出席をいただき有難うございます。

私は、富浦地区学校再編検討委員会の委員長を仰せつかっております、穂積利夫と申します。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

私ども、富浦地区学校再編検討委員会では、富浦中学校の再編に関し、富浦地区の保護者の皆様、また、地域住民の皆様と情報を共にしながら、意見交換

をし、委員会内で協議・検討を重ねて参りまして、富浦地区の学校再編に関する方針をまとめ、その結果を市へ提言することを担っているものでございます。

本日は、子どもたちを取り巻く様々な環境の中から、不安要素を取り除きながら、良質な学校環境、これを保持するために、更に向上させていくためには、この後、どういう選択をしたら子どもたちの将来にとって最良なことになっていくのか、これを皆様と一緒に考えるために、本日この説明会を開催したところでございます。

後ほど、事務局から市全体の中学校の生徒数の推移見込み、また、その中で富浦中学校が置かれている現状、そして今は仮の話として、富山中学校と統合するとした場合の説明を、この後行いたいと思っております。説明が終わった後、皆様方から貴重な御意見を頂戴し、いろいろとお伺いさせていただき、そういう段取りをとっておりますので、どうか富浦地区の子どもたちのために、忌憚のない御意見をお聞かせくださるようお願い申し上げます、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

どうぞ本日は、よろしく願いいたします。

### 3 教育長挨拶

進行 有難うございました。

続いて、次第の3、教育長挨拶。三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 こんばんは。御出席いただき大変有難うございます。

また日頃から、私ども、こども園・小・中学校いろんな事業に関しまして御支援、御理解いただいていることを、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございます。

さて、ただいま委員長の方からもお話ありましたが、この後、私どもが説明しますように、富浦地区の生徒数、非常に厳しいものになってきております。

昨年、保護者の皆さんに対しての説明会を行いました。今日皆さん方にまた再度、御説明申し上げます、それらの出ました質問あるいは御意見等をもとにして、穂積委員長をもとにした再編検討委員会で、富浦中学校と富山中学校の統合ということについて協議していただきます。

この後、富浦地区で再編の方向という結論、方向性が見えたら、併せて今、富山地区でも同じように説明会等を行っておりますが、富山地区でも、富浦中学校との統合という方向性が出ましたら、その段階で、両地区合同で会議を進めて参りたいと思っております。両地区で合同の会議を開きまして、何回になるか私どもちょっと検討つきませんが、会議を進めていただいて、その後、両地区の中学校のあり方について結論をいただく。そのような予定で考えております。

いずれにしても、生徒数が少なくなっている現状、これから御説明申し上げます。それを踏まえて、忌憚のないところで御質問・御意見いただいて、それを踏まえて再編検討委員会の方で協議していただきたいと思っておりますので、寒い中ですが、どうかよろしく願いいたします。

#### 4 委員紹介

進行 続きます、次第の4、委員紹介です。

お配りしてある「令和5年度 富浦地区学校再編検討委員会委員名簿」と、「席次表」を御用意ください。

本来であれば、委員お一人ずつ、お名前を御紹介するところではありますが、速やかに説明会に移り、皆様から御意見等を頂戴する時間を長くしたいと考えていますので、大変申し訳ありませんが、委員名簿と席次表を御確認いただき、御紹介に替えさせていただきたいと思っております。

また、先ほどお伝えしましたが、進行が代わっておりますので、御承知おきください。

#### 5 説明

進行 続きます、次第の5、説明に移ります。

ここからは、穂積委員長に進行をお願いいたします。よろしく願いいたします。

委員長 それでは、次第の5、説明に入ります。

- (1) 富浦地区の中学校の現状について
- (2) 富浦地区の中学校再編について

(3) 保護者説明会の概要について

と、ありますが、関連していると思われますので、事務局から一括して説明をお願いいたします。

その後、次第の6、質疑・意見交換で、説明に対して質疑、御意見、その他聞きたいことなどを一括してお聞きしたいと思っております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは次第の5、説明の(1)「富浦地区の中学校の現状について」を説明いたします。

資料1の表面「南房総市立小学校・中学校 児童生徒数 推移見込み(市内全地区)」を御覧ください。この表は、令和5年5月1日現在で、学校基本調査を基にして、市内全地区の児童・生徒数の推移見込みを作成したのになります。

表の富浦地区の欄を御覧ください。左端の令和5年度、中学計を見ますと生徒数は104人が、右端の令和11年度には68人で36人減少する見込みとなっております。

同様に富山地区は令和5年度100人が、令和11年度には90人で10人減少、三芳地区は令和5年度88人が、令和11年度には96人で8人増加。令和6年度から統合する白浜・千倉地区は令和5年度235人が、令和11年度には189人で46人減少。平成26年度に統合した丸山・和田地区は令和5年度157人が、令和11年度には145人で12人減少となっております。

この表は、あくまで見込み値ですので、今後、転入・転出があった場合は変わることもありますが、市全体で出生数は減少傾向にあり、今後もこの状況は続くことが予想されます。参考となりますが、令和5年12月末時点での出生数は、富浦地区が8名、富山地区が6名となっております。

続いて裏面の「中学校別 部活動の実施状況」を御覧ください。令和5年度、市内中学校別部活動の状況となります。

各校とも、少人数で切磋琢磨しながら活動していることがわかります。このような状況から団体競技では、単独チームでの参加が困難な部活動もあり、個人戦のみの参加や合同チームで大会に出場するなどしており、先ほど説明した

推移見込みのとおり、今後もこの状況は続くことが予想され、部活によっては、部員数がそろわず休部せざるを得ない部活も出てくる可能性があります。

続きまして、資料2の「南房総市立中学校 生徒数・学級数・教員数 推移見込み（富浦地区・富山地区）」を御覧ください。

この表は、先ほど御説明させていただいた資料に学級数・教員数を追加し、現状の理解を深めていただくために作成したものになります。令和17年度の1年生は、令和4年度に出生した子どもになります。先ほど参考としてお伝えした12月末までの出生数と、これから3月末までに生まれる子どもが令和18年度の1年生となってきます。

それでは、富浦中学校の2段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。国の基準によりますと、40人学級を標準としておりますが、現在、千葉県の弾力的運用により、1年生を35人学級、2年生、3年生を38人学級として運用をしております。現在、各学年1クラス編成であり、2クラス編成が可能な時期もありますが、おおよそ1クラス編成が続くことが見込まれております。

次に、富山中学校の2段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。同様に2クラス編成が可能な時期もありますが、おおよそ1クラス編成が続くことが見込まれております。

次に、統合した場合の2段目、通常学級数（弾力）の欄を御覧ください。令和15年度から各学年1クラス編成となる見込みですが、それまでは2クラス編成、3クラス編成が可能となります。

次に、教員の配置数ですが、富浦中学校の1番下の段、正規の教員数の欄を御覧ください。令和5年度は11名となっており、そのほかに会計年度任用職員として、美術の教科担任講師が1名おります。

次に、富山中学校ですが、正規の教員数は10名となっており、そのほかに臨時的任用講師が1名、会計年度任用職員として、体育・技術・美術の教科担任講師が3名おります。

次に、統合した場合ですが、学級数が増えることにより、教員の配置数も増加した配置となります。教員数が少なくなると、経験、教科などの面でバランスのとれた配置が行いにくくなり、増加した場合、教員同士で相談・研究・協力・切磋琢磨していくことなどができるようになります。

事務局 続きまして、説明の（２）「富浦地区の中学校再編について」を説明いたします。

資料３の「富浦地区の中学校再編（案）」を御覧ください。

１番の市の再編（案）ですが、市では、富浦中学校と富山中学校の統合を再編（案）として考えております。富浦中学校と富山中学校の統合について、令和５年１１月１０日に富浦地区学校再編検討委員会を立上げ、これから、統合するか、しないかについて、協議・検討をいただきます。

次に、２番の富山中学校との統合の理由ですが、アからカまでの６項目を記載しています。

ア 生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくためには、統合により、生徒数を確保することが望ましいと考えられるため。

イ 富浦中学校は、現在、各学年１クラスだが、統合することにより、２クラス又は３クラスの学級編成ができ、クラス同士が切磋琢磨する教育活動や、クラス替えが可能となるため。

ウ 学級数が少ないと、配置される教員も少なくなり、教育活動に制約が生じつつあるが、統合することによって教員の配置数を確保でき、より良い教育環境を提供できるようになるため。

エ 生徒数の減少により部活動の実施が厳しくなっているが、統合することによって充実した部活動が実施できるため。

オ 富浦地区及び富山地区の遠方から、３０分程度でスクールバス通学が可能であるため。これはどちらかの校舎を使用した場合であり、あくまで参考となります。

カ 三芳地区を含めた内房地区全体として検討をすると、かなりの広範囲となること、及び三芳地区の生徒数は当面の間は現状を維持することから、三芳地区は除いて検討を行うため。

以上の理由から、市では、富浦中学校と富山中学校の統合を考えております。

最後に、３番の学校の再編時期、学校の位置、学校の名称についてですが、条例、規則等の改正を伴う重要事項となります。この３項目については、富浦地区、富山地区、それぞれの学校再編検討委員会で、富浦中学校と富山中学校

を統合する方向でまとまりましたら、富浦地区・富山地区学校再編検討委員会で合同会議を開催し、その中で協議・検討していただくことと考えております。

事務局 続きまして、説明の（３）「保護者説明会の概要について」を説明します。

資料４の「保護者説明会の概要」を御覧ください。

昨年１２月１９日に、富浦小学校及び富浦中学校の保護者を対象に「富浦地区学校再編に関わる保護者説明会」を開催いたしました。「富浦地区の中学校の現状について」及び「富浦地区の中学校再編について」を説明したところ、保護者の皆様からいろいろな御意見・御質問をいただきましたので、抜粋して報告させていただきます。

１ページ目のＱ２、「スクールバスについて、どういうコースで何台くらい走るのか。」という質問に対して、「統合が決まれば、通学支援部会という専門部会を設け、その中でどういうコースを走るのか検討していただき、必要な台数が決まります。」と回答しています。

続いて２ページ目のＱ４、「資料２の推移見込みを見ると、結局全部１クラスになってしまう。そうなった場合、教員数も今の１０人程度に戻ってしまうが、この辺についてはどのように考えるか。」という質問に対して、「統合しても数年後に元に戻るという状況になりますが、統合しなかった場合については、生徒数はもっと少ない状況になってくると思います。現実にはこういうような人数になってきたときに、この時点で何ができるのか判断していかなくてはいけないと思っています。」と回答しています。

続いて３ページのＱ５、「富山地区は学園になっていて、小学校から中学校まで同じくくりになっているかと思うが、学園というのは無くなり、中学校単位になるのか。」という質問に対して、「各中学校単位で、保育所・幼稚園・小学校・中学校、これらひとまとまりで学園としています。同じ敷地に各施設が有る、無しの違いはありますが、学園の中で連携について話し合っている。もし、富浦中学校と富山中学校が統合した場合については、新たな学園ということで、中学校は一つ、小学校は二つ、子ども園が二つ、そういうような形の学園となります。」と回答しています。



続きまして4ページ目のQ7、「中学2年生の子が来年統合になります、となった場合、急に3年生同士で同じ学校に通うことになり、高校受験プラス友達作りということになる。統合される前に何かワンクッションあればいいと思います。」という意見に対して、「白浜中学校と千倉中学校は統合という方向性が出てから何回か一緒に学習したり、お互いの学校に行ったりとか、そういう面でも準備期間を置いています。また、中学校だけではなく、小学校の段階でもそういう交流を行っています。」と回答をしています。

続いて1ページ飛ばしまして、6ページ目のQ11、「統合するとしたら、富浦が富山に行くのか。」という質問に対して、「富浦地区・富山地区の両方で『統合する方向で検討していきます』という結論をだしていただいたら、両地区合同の会議を開催し、学校の再編時期、学校の位置、学校の名称について検討委員の皆様方に協議していただきますので、まだ決まっていません。」と回答をしています。

7ページ目のQ14、「統合について、予定としてはいつぐらいを予定しているのか。また、和田・丸山地区、白浜・千倉地区について大体何年くらいでまとまったのか教えてほしい。」という質問に対して、「和田・丸山地区の中学校については、結論が出るのには1年程度。状況を整えるのに時間がかかったが、それでも3年はかかりませんでした。小学校については、ちょうど3.11（東日本大震災）の後で津波の心配など校舎の位置について議論があり、3年くらいかかりました。白浜・千倉地区につきましては、コロナの影響で会議の開けない時期というのが間に入りましたが、実質的に会議が2年くらいで、準備していく期間があり、コロナも入れて4年くらいかかりました。富浦・富山地区についても、方向性が出るのに最低2年、色々な準備に1年、早くても3年はかかると想定しています。」と回答をしています。

以上が保護者からいただいた御意見・御質問の抜粋となります。統合後の質問が多く、概ね統合することを肯定的に捉えていただけていると思っています。

以上で説明を終わります。

## 6 質疑・意見交換

委員長 有難うございました。事務局の説明が終わりました。

それではこれより、次第の6、質疑・意見交換に移りたいと思います。ただいまの説明に対しての御質問・御意見や、その他、お聞きしたいことがある方は、挙手をお願いいたします。事務局がマイクをお持ちしますので、自席にてお待たせしたいと思います。マイクが届きましたら、お名前を述べてから、御発言をお願いいたします。

また、先ほど事務局からのお願いがあったとおり、御発言の際はマスクを外していただくようお願いします。

どんなことでも結構です。御質問、御意見等ありましたら、お願いしたいと思います。

<しばらくの間>

委員長 この資料は今、初めて明示されたと思いますけども、いろいろと事務局から説明をしていただきましたので、お気づきの点、あるいは不明な点等がありましたら、御遠慮なく御発言をお願いしたいと思います。

<しばらくの間>

委員長 説明をした点で何か不明な点、そういったものがありましたら、御質問等よろしいですからお願いしたいと思います。

<しばらくの間>

委員長 どんなことでも結構です。  
はい、どうぞ。少々お待ちください。

参加者 災害があった場合、お迎えになるじゃないですか。その際の道路ってどうしたら良いんですかね。

富浦が富山に行くにしても、富山が富浦に来るにしても、結局あそこの国道とか、ちょっと道が悪くて、お迎えの手段っていうのはどう確保していったら良いのか、というのは不安であります。

委員長 事務局お願いいたします。

教育長 はい、お答えします。

お迎えの心配は当然あると思います。今、子どもは警報が出た場合とか、大きな地震があったとか、そういう場合については、即お迎えってことはお願いしないような形をとっています。

さっきの説明資料のところがありましたけど、引き渡す3原則っていうものを設けています。自宅周辺の安全が確認された場合、そして自宅から学校・園までの道路の安全が確認された場合、三つ目が、子どもを学校・園から手元に戻した場合、家に帰った場合、ずっと保護者がついていてという、この3つですね。自宅周辺の安全が確認されたとき、あとは自宅と学校・園までの経路の安全が確認された場合、あとは自宅で引き取った後、保護者がずっとついてということが確認された場合についてだけ、お子様をお渡しします。

それ以外、三つの原則は一つでも欠けた場合については、園・学校でお預かりするという原則にして今やっておりますので、今御心配があったような道路の状況だとかそういった場合については、もう、学校・園が安全なところにありますので、信頼してお預けしていただくということになります。

足りない点があったらどうぞ。

委員長 ただいまの回答でよろしいですか。

参加者 すいません。今の状態であれば、富浦に住んでいて富浦に中学校があれば、お迎えとか結構容易にできたりするんですけど、安全に預かってもらえているのは分かってますし。ただそういう、本当に大きな災害があったりした場合は、やっぱり早く迎え入れてあげたいっていうのがあるので、道路の状況とかそういったことも御検討いただかないと、保護者としては不安です。

委員長 再質問についてどうぞ。

教育長 私どもそういうような形をとりましたのは、3.11のときに、学校とか園に残った子どもたちの多くは、ほとんど助かっているわけですね。それで学校から引き取って帰った子とか、あるいは幼稚園から自宅に送られた子たちが、残念ながら亡くなっているわけです。

こういうものを踏まえまして、私どもこの再編に当たっては、子ども園あるいは小・中学校は極めて安全なところにといいことで心掛けています。ですから、もし自宅に親御さんがいた場合にどうするかっていったことは、子どもを自宅に迎えて、子どもを自宅に引き取るのではなくて、自宅から学校・園に避難していただくっていう、これが一番考えていただくことというふうに考えています。

ですから、今までのその3.11の東日本大震災の例を踏まえても、やはり子どもたちを自宅に引き連れ帰るのは、果たして安全かどうかということも、私も疑問に思っていますし、そういうのを踏まえて、この10年間、そういうような訓練を行っていますので、これについては御理解いただければと思います。

子どものことが心配でしたら、自宅から子ども園の方に来ていただいて、一緒に避難していただくっていうのが一番良い方法ではないかなと思っています。

委員長 ただいまの回答でよろしいですか。

とにかく安心・安全を第一に考えて行動をとるといって、今後とも進んでいくということでございます。

他にいかがですか。どんなことでも結構です。せつかくの場でございますので。

はい、どうぞ。

参加者 私の家族は引っ越してこちらに住んでいるんですけども、結構、転校生、転入生ですね、転入生が富浦地区増えていると思うんですけども、そういうのも、増えていったとしても、再編をしないと人数が追いつかない感じなんですかね。

委員長 事務局お願いします。

教育長 正確な数字を把握しておりませんが、確かに転入している子どもたちがいます。これは富山地区も同じであります。

ただそれらを踏まえて、それを入れた数が、さっきお示した数字になりますんで、転入者、移住された方いらっしゃいますけど、極端に増えているとか、そういう状況にはならない。逆に、入ってこられた方がいても、全体としては人数が減っているというのが現状であります。

委員長 ただいまの回答でよろしいですか。

参加者 はい。

委員長 市の方もいろいろと、転入者あるいはそういった人口増の施策は講じているんですけども、なかなかそれが実現していないというのが現状でございます。

ただ、子どもさんの将来を考えた場合に、どういう教育施設、学校環境を整えたらよろしいのか、これが今一番大事なことであろうというふうに思っております。

よろしいですか。少々お待ちください。

参加者 三芳地区の合併は、生徒が現状維持するということで見送りと書いてありますけれども、資料で富浦地区と富山地区の生徒が、令和11年度までの推移というのが書いてありまして、富浦と富山については他の資料で令和17年度まで出てますよね。ちょっと三芳地区見ると、小学校の方の計がやはり、かなり、令和5年度から11年度まで変化がありますけれども、減少しますけれども、三芳中学校の人数の推移というのも、令和17年度までちょっと見たいなと思ってるので、良かったら今度見せていただきたいと思うんですけども。

どうしてそういうことを言うかといいますと、現状で富浦と富山だけ合併するというところで、場所をどうするかという話をこれから多分、皆さんされると思うんですが、もし富山地区になった場合、三芳が今度減少してきて合併しますという時になると、それこそスクールバスの乗っている時間が長くなったり

距離が長くなったりして、災害時とか日常の通学の便が変わると思うんですけども、富浦に合併してきたとしたら、三芳からもちょっと近いかなとか思うんですが、三芳の方の資料も、もうちょっと見たいなと思ひまして、お願いいたします。

委員長 事務局いかがですか。

三芳地区の今後の人生徒数の推移について。

事務局 三芳地区の17年度まで表記した資料の方については、御用意させていただいて、何かしらの形で皆さんにお渡しできるようにしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

委員長 それでよろしいですか。

今回の場合には令和17年度までの三芳地区の数字は載っておりませんが、直近の5年間のものについては御覧の通りで、急激にまたこれが下がるといふことは、今の状況の中ではあまりないようなんですけどもね、実際の数字がどうなってくるのか今一度、確認をとります。

教育長 それでは、改めての説明会ってのはちょっと考えにくい状況ですので、今御指摘いただいた資料については、次回の再編検討委員会で資料として提示いたしまして、再編検討委員の皆さん方に協議していただくということよろしいでしょうか。

参加者 はい。

委員長 資料については、この後の会議の中で明確にしていくということで、この問題については進めていきたいと思ひます。

他に、はい、どうぞ。少々お待ちください。

参加者 青木に住んでいる者です。

私は中学校のすぐ前だということで、朝夕、子どもたちが声をかけてくれます。バスケットの試合を見たり、野球を見たり、時折、地域のおじいちゃん、おばあちゃんを呼んでいろんな催し物に参加させていただいたりとか、いろいろとしていただいています。そんなんで、中学校の近くに越してきて良かったなって。この話を聞いて正直びっくりしているところです。

私は以前、市川に住んでいましたが、中学校と老人施設が、複合ですか、そういうふうになっているところがありました。私は本当に、この中学校残して欲しい、その一心で、何かそういう複合体で、この中学校をそのまま残すことはできないでしょうか。

それともう1点。お年寄りばかりだとちょっと寂しいです。富浦も。できましたら、若い人も子どもも、中学生もお年寄りもみんながいる町にしたいです。そんなんで、中学生がもっと増えてほしいです。小学生も増えてほしいです。そういうことでは、もっとお父さん、お母さんたちのお仕事をする場をもっと政策的に増やしていただけたらなど。それが中学校や小学校の存続に繋がるんじゃないかなってという想いがありますが、その辺はいかが考えておられるか教えてください。以上です。

委員長 事務局お願いします。

教育長 後の方の、仕事を増やすということですけど、これは教育委員会だけではなくて、市、市役所全体でいろんな取り組みをしております。先ほどお話ありましたように、移住されてこられる方も若干ではいます。こういうものについては、また今後も進めていかなくちゃいけないと思ってます。

今、中学校がなくなることと、あとは複合施設ですね、こういったことについては御意見としていただいて、この後再編検討委員会の皆さん方がそれを踏まえて、また協議をされていくことになるかと思えます。

今後も人を増やすことですね、こちら特に若い人たちですね、そういった人たちが増えて子どもたちが増えるような努力は、重なりますけど、続けていきたいと思っております。

参加者 よろしくお願ひします。元氣の出る南房総であつてほしいと思つて、願つて  
ます。以上です。

委員長 有難うございました。

よろしいですか。今後のいろいろな行政、そういったところの中にまた反映で  
きるように、また私達委員会としても、かういふ御意見があつたといふ  
ことを頭の中に入れて進めていきたいと考えております。

少々お待ちください。

参加者 富浦学園の者です。いつも子どもたちがお世話になっております。

先ほどちょっと話もあつたんですけど、今回は富浦地区と富山地区の合併と  
いふことなんですけども、統合する理由からいくと、三芳地区だけが取り残さ  
れてしまつて、統合する検討する理由からいくと、本来は三芳も含めて、多分  
3校合併といふのはすごい大変だと思ふんですけども、本来ならば三芳地区も  
この生徒数であれば、クラスや人員確保、部活動の機会といふことを考えるの  
であれば、これ見ると白浜と千倉も合併しますので、三芳地区だけが取り残さ  
れていくような形があるんですけども。

といふのは、富浦学園にも三芳地区の方に生徒、児童がいますので、なぜ三  
芳地区だけが外れてしまうのかといふところを、ちょっとお聞きしたいんで  
すけども。

委員長 事務局お願ひします。

教育長 富浦学園が、ホームですか、多田良にある施設以外に普通の民家のような形  
のところ集団で生活していることは承知しております。それが館山市あ  
るいは三芳地区ですね、そこにあることも承知しております。

ただ冒頭申し上げましたように、三芳地区は生徒数がそれほど減つていな  
い、あるいは令和5年度に比べると若干増えているといふような状況にあり  
ますので、今回については三芳地区を除いて、生徒数が減っている富浦地区と  
富山地区で考えていくことで。学園にとっては、同じ学園の中にいる子た



ちが、また違ったところに行くってようなことも出てくるかもわかりませんが、今申し上げたようなことで御理解いただければと思っております。

委員長 ただいまの回答でよろしゅうございますか。

他に御意見は。はい、少々お待ちください。

参加者 資料2のほうで先ほど、統合すれば正規の教員数が増えるという説明があったと思うんですけど、令和5年度でいくと富浦中で11人、富山中で10人ということで、合算すれば21名ということで、実質減ると思うんですけども。やはり今、いろんな産業で要員不足というか、担い手不足となっておりますけど、やっぱり中学校の教員の先生もなり手がいない。統合すれば、生徒は増えるんです。逆に教員数が、正規の教員数が現状だと減るじゃないですか。その辺やっぱり、教育の方もそういった、教員になる人が少なくなっているのかどうかちょっと、お伺いしたいです。

委員長 事務局お願いします。

教育長 ひとつ、最初の質問ですか、教員のなり手が減ってきているって、これは事実であります。教員を目指して採用試験を受けて、残念ながら合格しないで、次の試験を待ってる間に講師をやるとか、そういう人達が今まで多かったわけですけど、そういうのが全くと言っていいほどいなくなっています。ですから私どもも、現状でも教員を確保するのに大変な状況になっています。これは千葉県だけじゃなくて全国的な傾向でもあります。

あと、2つ目のほうですけど、2つの学校を合わせると教員が減るってことですけど、10人の学校と10人の学校を合わせると20人ですけど、統合しますと1つの学校ということになりますので、合わせた20人に比べてどうかじゃなくて、それぞれ単体の時10人の教員がいたのが、統合すると12人になるとか13人になるとか、そういうような考え方ですので。統合しない限りはそこにあるような、資料2で御覧いただきますと、令和5年度で見ますと富浦中学校10人ですか。それを2つの学校が統合しますと、その一番下の

欄、17人ですか。7人増えるような、そういうようなカウントの仕方になってきます。

教員全体としては、20人が17人ということで減るわけですけど、これは今申し上げたような、教員が減ってきているからそのために20人の教員を17に減らすとか、そういうことでは全くなくて、1つの学校で10人しかいないけど、2つ合わせると、統合した場合については17人の教員が配置されるっていう、そういうような理解をしていただければと思います。

委員長 ただいまの回答でよろしゅうございますか。

<しばらくの間>

委員長 他に御質問等いかがですか。どんなことでも結構です。  
少々お待ちください。

参加者 すいません度々。

要望といいますか、ちょっと御意見させていただきたいのは、今回、富浦地区の委員さん、PTAの役員さんとか、多分、依頼して委員になっていただいていると思うんですけど、行政の方もPTA役員をやっている方がいると思うんですね。市の職員さんが入っている委員っていうのは良いこともあるんですけども、今回については、自分の町に、もしかしたら学校がなくなってしまうという、凄く重要な案件なので、逆にそういった市の職員さんがいると、委員のときに言いたいことも言えない、発言が述べられないんじゃないかなというふうに、ちょっと感じております。

なのでもし、PTAの方で市の職員さんがいる場合は、違う方になってもらいたかったなっていうのは正直な感想でございまして。なぜそんなことを言ったかという、富山地区のほうの委員会では、実際今、PTAの委員になっている方が庶務ということで、行政側の方の立場で確かやっているの、こういう市の重要な案件に対して、片や委員、片や行政側っていうのは、ちょっとどうなのかなっていう違和感がございましたので、その辺御配慮いただきたいなと思っているところです。

教育長 これは特に、個人的なことになってきてしまうので一般的に申し上げますと、私どもがこの再編検討委員会に、PTAの役員の方々と、あて職のような形ですね、そのような形で委員をお願いしたときには、おそらく小中学校の今日お見えになっている役員の方々は、この再編検討委員会の仕事があるということは全く想定していなくて、役員をお決めになったのではないかなと思いますので。ただ結果的に去年の9月ぐらいですか、その段階で、あて職でお願いしますということで、結果的に今、御指摘があったようなことになったわけですが、その点についてはまず仕組みとして御理解いただければと思います。PTAのほうも意図的に市役所職員を役員に選んでるとか、そういうことはないと思いますので、この点については御理解いただければと思います。

あともう一つは、市役所職員であってもやっぱり保護者の立場というのがありますので、それは市役所職員であっても、主張すべきところは主張するものと思っております。これは、それぞれ今日、委員でお見えの方は、そういうような気概を持って望んでいらっしゃる、そんなふうに私は考えております。

委員長 よろしいでしょうか。

参加者 もし仮に私になったときに、なかなか委員会で発言っていうのは、自分も会社員やってますので、社長になかなか意見を言えるとか、難しいと思うんですけど。皆さんいかがですかね。

委員長 いずれにいたしましても、私ども、この検討委員に選ばれたその時点で、富浦の子ども、あるいは統合しようとする子ども、この子どもたちの将来どうしたら一番良いのか、まずそれを頭の中に置いて、いろんな問題、ここはどうしたらいいか、いろいろ検討しながら一番良い方法を選び出していく。それが我々の役目であろうかと思っております。決して、職にあるから、ないからではなくて、地域に住む子どもたちがいかにしてこの地域から大きく羽ばたいてくれるか、その環境作りを仕上げていくのが我々の役目であろうと、このように考えております。私はそういう意味合いで、今日も皆さん方といろいろお話をしていく、また今後とも御意見があれば、いろいろお聞かせしていただきたいと、このようにお願いいたします。

よろしいでしょうか。いずれにしても、ここに座っている委員は、この地域の子どもたちがどのような環境に置かれたならば、素直にのびのびと学校に通ってくれるかなど、これを願っていると私は信じています。

以上です。

委員長 他に、御意見・御質問等ございますか。

<しばらくの間>

委員長 御質問等は特にございませんか。よろしいですか。

特にないようでございますので、質疑・意見交換を終えたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、質疑・御意見がないようでございますので、これで終了したいと思います。

後日、何かお気づきになった点、あるいは、もっと知りたいという点があれば、直接事務局へお問い合わせいただくようお願いしたいと思います。

本日、皆様方から頂戴した御意見等については、今後の富浦地区学校再編検討委員会の協議検討の際に、参考とさせていただきます。

それでは次第の6 質疑・意見交換を終わります。

進行を事務局にお返しいたします。

寒い中長時間にわたりまして、皆さん方から貴重な御意見をいただきましたこと、本当にありがとうございました。

事務局お願いします。

進行 穂積委員長、進行有難うございました。

本日、聞き漏らした点や後日、お気づきになった点などがございましたら、事務局の学校再編整備課、電話46の2962までお問い合わせください。

また、今後の富浦地区学校再編検討委員会の協議・検討内容は、市ホームページで逐次公開いたしますので、御確認をお願いいたします。

7 閉会

進行　それでは以上をもちまして、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。